



特集

不動産とIT

ITを活用した不動産業の動向と個人向けサービス

不動産緑風会設立で
ビジネス交流を加速



R.E.A.の達人 その3

エムディプランニング 道下直明さん

2004年度宅建合宿開催
資格試験合格体験リポート

明海大学内の緑地が整備される

2004年度 新理事・新評議員決まる

～第16回理事会・第11回評議員会 開催される～

明海大学浦安キャンパス同窓会緑風会の第16回理事会・第11回評議員会が、平成16年6月5日（土）に明海大学浦安キャンパス4302会議室において開催された。

任期満了に伴い、理事ならびに評議員の改選が行われ、理事会において新評議員の選出が行われた、評議員会において理事会提出の新理事案及び役員案が承認された。

新理事の就任挨拶の後、早速、平成16年度の事業計画・予算案について討議が行われ、評議員において事業計画・予算が可決された。（詳細は12ページ参照）

会議の出欠ならびに今年度からの理事と役員・評議員は以下のとおり。任期は1年。

●出席者（敬称略、順不同）

本間 勝、石川崇之、大友哲哉、樋口みどり、磯川敬子、丸島浩二、池下靖展、久保ノ谷淳、竹内靖治、藤坂篤史、道下直明、吉野 淳、山田宏美

（以上 13名）

●委任状

佐藤仁思、岩切秀仁、渡辺孝之、吉池 豪、西田 忍、長谷川ゆう子、野津友厚、小野文章、陣鎌真澄、齋藤 豊、田村康史、宋 杰、高橋秀輔

（以上 13名）

●欠席者

種村友紀子、松島孝夫、渡邊昭仁、周 涛、伊藤 憲、山陰慶子、阿部日出男、大森いずみ、武藤由美子、大山勝

（以上 10名）

●同席者

福山事務長、佐藤奈奈海事務局員

●新理事

本間勝（代表）、岩切秀仁（副代表）、石川崇之（事務担当）、渡辺孝之、吉池豪、西田忍、種村友紀子、渡邊昭仁、松島孝夫、周涛、大友哲哉、樋口みどり、長谷川ゆう子
伊藤憲（顧問）、佐藤仁思（顧問）、丸島浩二（監事）、野津友厚（監事・本部）

●新評議員

池下靖展、山陰慶子、阿部日出男（1996年卒）
小野文章（1997年卒）
陣鎌真澄、齋藤豊（1998年卒）
大森いずみ、田村康史、宋杰（1999年卒）
久保ノ谷淳、高橋秀輔、武藤由美子（2000年卒）
道下直明、大山勝（2001年卒）
竹内靖治（2002年卒）
藤坂篤史、吉野淳、山田宏美（2003年卒）

●委員会

運営委員会 本間、渡邊（昭）、種村、樋口、松島
広報・IT委員会 大友、石川、吉池、本間
就職支援委員会 渡邊（昭）、渡辺（孝）、佐藤、伊藤、岩切
記念事業委員会 岩切、長谷川、西田、周



代表
就任

本間 勝（第1期卒）

にあたり

この度、理事会ならびに評議員会のご推薦を賜り、代表に就任致しました。

緑風会も、1996年の設立から早くも9年目を迎えました。緑風会は浦安キャンパス同窓会の支部組織ですが、学部学科単位の同窓会は浦安においては当会だけです（今年度、英米語学科は設立予定）。緑風会が第1期生卒業と同時に設立されたことは大変意義があり、不動産学部の結束力を垣間見ることができます。これは、不動産学部が日本にただ一つの学部であり、不動産学のパイオニアであるからゆえのことだと思います。

しかし、振り返りますと、学部設立以来、日本経済の低迷から卒業生の就職は困難を極める中、不動産業界の未来を信じ、地道に活動してきました。お蔭様で、この会をきっかけにビジネスや人的交流においてメリットを得た会員がたくさんいることは喜ばしいことです。今後、初代代表の伊藤憲君（第1期生）、第2代代表の佐藤仁思君（第1期生）から引き継ぎ、私が在任中行うべき事項（目標）は、以下のように考えます。

- ① 卒業生のビジネス交流を活発にする
- ② 卒業後の自己啓発について支援をする
- ③ 現在の不動産学部学生に対する支援をする
- ④ 明海大学不動産学部の社会的認知を高める努力をする

当会の特徴は不動産学部の同窓会であることから、不動産に携わる卒業生は半数を超えており、必然的に不動産ビジネスに対するニーズが高いといえます。これについて、本年度中を目標に、不動産関係の業に携わる明海大学卒業生が入会できる「不動産緑風会」というビジネス交流会を設立する予定であり、現在準備中です。東都6大学などを中心に、このような交流会はすでに存在しており、他大学との交流組織である「大学不動産交流会」に加盟する予定です。これについては、慶應義塾大学の不動産三田会に全面的なご協力をいただきました。このような組織をきっかけに、ビジネスを通じて人的交流が活発となり、不動産業界において大きな勢力となることに期待しております。

また、卒業後、資格を目指したい、専門的な再教育を受けたい、といった考え方をお持ちになる卒業生も多いことから、卒業後の不動産関連国家資格の取得奨励や再教育の機会提供なども検討しており、一部実施を開始いたしました。

在学生に対しては、在学中の宅建取得を目標に宅建夏季合宿に協力することを実施し、今後も何らかの形で在学生の宅建資格取得の支援を行いたいと考えております。

不動産学部の社会的認知については、卒業生の社会での活躍や大学が所在する浦安市民の方々の評価が重要と考えます。よって、地域住民の方々との交流、在学生の教育後援会（父兄会）との交流、学校法人明海大学との情報交換を行い、学部発展のための結束を図りたいと思います。

来年度は10年目を迎え、節目の年となります。10周年記念行事も企画しております。

今後とも、会員の皆さんのご協力と積極的な参加をお願い致し、就任の挨拶といたします。

特集

IT企業が野球球団を設立する時代となりましたが、90年代の後半から今日までを振り返ると、急激な変革によって社会にITが普及しています。

不動産業界では、当初は物件を直接見ることができないことなどのIT環境の制約から、その活用については鈍化した動きでしたが、現在では、IT技術の進歩から様々な形による情報伝達が可能になったため、不動産ビジネスにも大きな役割を持つようになりました。ITを活用しない不動産ビジネスは、今後衰退する可能性も否定できないでしょう。

今回の特集は、不動産ビジネスあるいは個人が不動産についてITをどのように活用できるのか、考えてみました。

不動産とIT

ITを活用した不動産業の動向と個人向けサービス

不動産業界の主なホームページ情報提供の動向

不動産の物件情報を得る方法として、ホームページによる物件検索が充実してきました。よって、従来の不動産情報誌を購入し調べる方法は衰退し、今後、ホームページの検索によって物件情報を得ることが主流となることが容易に考えられます。

●主な検索サイト

(ポータルサイト系)

yahoo不動産 <http://realestate.yahoo.co.jp/>

goo住宅・不動産 <http://channel.goo.ne.jp/house/>

infoseek不動産 <http://house.www.infoseek.co.jp/top/>

excite不動産 <http://www.excite.co.jp/housing/>

msn住宅 <http://house.msn.co.jp/home.armx>

fresh eye住まい <http://www.fresheye.com/room/> など

(不動産情報会社系)

ISIZE住宅情報 <http://www.isize.jutakujoho.jp/>

At home web <http://www2.athome.co.jp/index2.html>

Home's <http://www.homes.co.jp/> など

(不動産業界系)

不動産ジャパン(業界4団体参加) <http://www.fudousan.or.jp/>

ハトマークサイト(全宅連) <http://www.hatomarksite.com/>

Zen net(全日) <http://www.zennet.jp/top.html>

ホームナビ(不動産流通経営協会) <http://www.homenavi.or.jp/>

日住協.NET(日本住宅建設産業協会) <http://www.nichijukyo.net/> など

(その他)

日経住宅サーチ <http://sumai.nikkei.co.jp/> など多数

来年は情報サービス質による競争か

現時点では、不動産情報の検索による情報提供は各社多数行っている状況です。よって、今後はその情報の質が問われる段階に入りつつあるようです。

いかにPC上での情報と現物にギャップが無いような情報を提供できるか、によって多数あるサイトから勝ち組が残るといえます。例えば、物件映像により自由に家の内部を見ることができ、周辺環境もある程度把握できる、などの情報提供も現在では技術的に可能となりました。また、不動産・住宅関連の情報サービス(たとえば、ローン情報や建築ノ

ウハウなどの情報提供等)が充実しているサイトもあり、各サイトの特徴や使いやすさ、ユーザーが必要としている情報がすぐに見つかるかどうか、などがユーザーに支持される重要な条件となると思われます。

実践・不動産の評価を調べる方法

現在はインターネットを通じて、様々な情報が入手できます。不動産の評価に関する情報も同様に入手が可能になってきました。正確な評価は不動産鑑定士が評価しないとわかりませんが、個人的に相場を把握する程度であれば、価値の目安を知ることも可能のようです。

エンドユーザーが、自分で購入する土地価格の目安を知ることを想定します。一昔前であれば、広告などから周辺物件の販売価格を知ったり、地元の業者に聞いて、なんとなく把握するくらしか方法がありません。しかし、販売価格が正常な価格かどうかは分かりません。

ここでは、インターネットで情報を集め、評価が把握できるのか試してみます。

土地価格の求め方は取引事例比較法で行います。

つまり、①類似する土地を選ぶ ②時点修正を行う

③地域格差の反映を行う ④個別格差の反映を行う

という手順を踏むということです。

けっこう本格的です。では、実際にデータを集めていきます。

①類似する土地を選ぶ

公示地または基準地で対象地に類似したものを選びます。

地名で検索できますので対象不動産に近い土地を探すのも楽です。

※土地総合情報ライブラリー
<http://tochi.mlit.go.jp/>

②時点修正を行う

公示地や基準地の同一地点の変動率を採用します。

同一地点の公示地等の評価額を数年分集めて、どのくらい変化があるのか計算します。

※公示・基準価格サーチ(要無料会員登録)
<http://www.vs-net.jp/>

③地域格差の反映を行う

相続税路線価の比によって反映させます。路線価は道路に接する標準的な宅地の1m²あたりの価格で個別格差の考慮はありません。そのため単純に地域同士の比較を行なうデータに使えます。

※路線価図等閲覧

<http://www.nta.go.jp/category/rosenka/rosenka.htm>

④個別格差の反映を行う

土地価格比準表を使います。書店で約2,000円です。

ちなみにインターネットで検索すると必要な情報は得られます。

以上で、取引事例比較法による住宅地の評価に必要なデータが揃いました。

個別格差の反映は、主觀に入る余地はありますが、他は公的な情報ですので、それなりに根拠のある数字です。パソコン操作全般がそこそこ出来るのであれば、それほど難しいことではないでしょう。

エンドユーザーでもこれだけの情報を集めることができる環境が整っているということがわかります。また、不動産取引価格をすべて公開しよう、という動きもあるようです。これが実現するとレインズの成約事例や販売情報も役に立たなくなる可能性があります。データ収集だけであれば、プロと素人の差がどんどん縮まってきているのです。

このような流れの中で、不動産業者がエンドユーザーから支持されるには、どうしたらよいのでしょうか。データ収集と加工をパソコンで出来るのは当然、となれば、いかに顧客の利益になる提案ができるか、という分析力などのコンサルティング力で勝負することになるでしょう。

例えば、スキルアップのためにWordやExcelをマスターするのは良いことです。ただ、それは分析力やコンサルティング力をより大きくするための道具に過ぎません。この点を忘れることなく勉強を続けている不動産業者は業界で勝ち残っていけると思われます。

「不動産緑風会」 (不動産ビジネス交流部会)

の設立について

～2005年2月に立ち上げ～

明海大学不動産学部は、1996年3月の第1期卒業生を輩出以降、今年で9期、延べ人数3000人強の人材を社会に送り出しています。不動産業に従事されている卒業生も実務と経験を重ね中堅として、周囲の期待を担っていると状況であるといえます。また、我が国で唯一の不動産学部を卒業した者として、他大学を卒業した人々以上に不動産業界において強固なネットワークを構築できうる立場にあると思います。

このようなことから、この度、緑風会の一部会として、不動産業関連に従事している明海大学卒業生を対象としたビジネス交流部会（名称は「不動産緑風会」）を2005年2月に設立することとなりました。

その具体的な目的として、

- ①不動産業やその関連に従事する明海大学卒業生間のネットワークを具現化、深化させるため、物件情報交換会や懇親会、不動産業関連勉強会を行う。
- ②すでに先行して組織化されている、他大学の不動産業者同窓会（早稲田、法政、青山、日本、慶應、中央、立教、明治）で組織する「大学不動産連絡会」の一メンバーとして今後の交流を念頭におき、明海大学卒業生のネットワーク構築を行う。

を想定しています。

運営資金は、会員からの会費と緑風会からの部会活動援助金を原資とする予定です。

明海大学卒業生のネットワークがさらに広がり、皆様のお仕事にわずかでも役に立つ機会を提供できればと思っております。

不動産緑風会への入会や設立記念パーティの実施については、以下のとおりです。是非ともご参加くださいますよう、お待ちいたしております。

入会資格・方法

明海大学を卒業した

(大学院・科目等履修生・聴講生を修了含む)方で、

会則を遵守する方であれば、入会できます。

会報と同封した設立のご案内に記載している方法で

入会申込をして下さい。

設立記念パーティ

日時：平成17年2月4日(金) 19:00～21:00

場所：「Salut Copain -サリュコパン-」

東京都中央区日本橋3-7-20 デックビル18F

URL <http://www.salutcopain.com/wedding>

丸の内や汐留など夜景がきれいなお店です。

※参加するには、事前の入会手続きが必要です。

道下 直明さん

経歴：明海大学不動産学部卒業（2001年）明海大学大学院不動産学研究科博士前期課程修了（2003年）一級建築士事務所・エムディプランニング株式会社勤務



マンション建設工事を 行うための大変な申請

～あまり知られていない重要な仕事～

私は、平成13年に学部を卒業後、大学院不動産学研究科に進み博士前期課程を終了後、平成15年から一級建築士事務所で近隣業務を行っていました。

中高層建築物を建設する際、確認申請がおりなければ建設を着工することはできません。近隣業務は、確認申請前に、市や区で定めてある中高層建物紛争予防条例に従い、看板の設置・近隣住民への建築計画の周知を行います。その後、市や区に説明状況報告書を提出し、確認申請の手続きをできるように手続きを終了させる、という業務です。

皆さんには、これだけの説明であれば簡単に思われるかもしれません、実際行ってみると、とても難しい業務です。近隣住民へ建築計画の説明を行うと、多くの住民が建築計画に反対といわれ、日影・プライバシー・建物の圧迫感の問題で反対運動を行い、計画変更の要望をします。しかし、事業上変更ができず、住民の要望通りにできないため、何度も交渉を行い、計画に対して理解してもらうのは大変難しいことです。

もう一点難しい点があり、紛争予防条例から確認申請の手続きまで2~3ヶ月で進めなければなりません。近隣住民の状況によっては確認申請の提出の許可をいただくことが遅れる場合もあり、スケジュールを遅らせないように交渉を進めなければなりません。このような近隣業務に携わり感じたことは、スケジュールを遅らせずにすることだけが目標ではなく、計画建物に住む人と周辺に住んでいる住民が将来継続的にハッピーになるように、近隣住民に計画を理解してもらうことであり、私が行っている業務は、本来、計画建物に住む人を暖かく迎えてもらうための業務である、ことであり、とても責任が重く難しい仕事だと痛感しました。

今回、その仕事を退職することになり、経験を生かし次のステップを歩むことになりました。さまざまな不動産の分野に携わり、1年でも早く不動産のプロフェッショナルとして活躍したいと思っています。

今後も不動産学部を卒業したことを誇りに思い、努力し頑張って行きたいと考えています。

編集委員より

マンションの開発において一番難しい仕事は「近隣交渉」といわれます。開発側と住民側の橋渡し役を行ってきた道下さんの経験は、今後非常にプラスになると思われます。これからも不動産のプロフェッショナルを目指して頑張ってください。



2004年度宅建合宿開催

～緑風会、学部、教育後援会の 三位一体企画、無事に成功～

緑風会では、設立以来初の試みで、学生の宅地建物取引主任者試験対策として、平成16年8月22日から25日までの3泊4日の日程で、新潟県のホテル・アルパインにて宅建合宿を行いました。本会が主催、不動産学部ならびに教育後援会の協賛をいただきました。学生参加者数72名（申込者数76名）という多くの参加者があり、事故も無く、無事に成功させることができました。

初日から天候にも恵まれ、朝8時に大学集合し、教育後援会、大学職員に見送られ出発、東京湯島の湯島天神に立ち寄り、合宿ツアーの安全と宅建合格の祈願を行いました。

学習内容としては、主に昼間は、答案練習方式で学習し、夜は自習という内容でした。深夜の2~3時まで勉強している学生もいました。参加者の中には、今年宅建を取得して更に不動産鑑定士や、土地家屋調査士などの資格試験に挑戦したいという頼もしい学生もいました。

講義は、分野別の問題について、民法を不動産学部の大杉麻美助教授、業法を当会の岩切秀仁、法令と模試の解説を加賀優二特任助教授、鑑定分野を前川俊一教授、税法分野を柴由花講師が担当しました。初日には、外部から来賓として、株式会社週刊住宅新聞社 代表取締役社長・長尾浩章氏と、有限会社長谷川工業 代表取締役会長・長谷川治夫氏にお越し頂き、宅建試験への心構えや、就職への考え方や自分のライフプランを創造し、それを実行するために今何をすべきか、ということについて、特別講演をして頂きました。

湯島天神で祈祷



本間代表と長尾社長と長谷川会長



●合宿のスケジュール

日時	8月22日(日)第1日目	8月23日(月)第2日目	8月24日(火)第3日目	8月25日(水)第4日目
7		起床	起床	起床
8	明海大学前出発	朝食	朝食	朝食
9		模擬試験1	模擬試験2	特別講義 「鑑定対策」 「税法対策」
10	湯島天神で合宿の無事と合格祈願	模擬試験1の自己採点	模擬試験2の解説	
11				
12	「ホテル・アルパイン」到着	昼食	昼食	昼食,閉会式
13	開会式,昼食	模擬試験1の解説	懸賞付テスト	「アルパイン」出発
14	民法10問テスト	民法10問テスト		
15	民法10問テスト	休憩	テストの自己採点	
16	業法10問テスト	業法10問テスト	休憩	
17	法令10問テスト	法令10問テスト	懸賞付テスト解説	東京駅到着・解散
18	夕食	夕食	夕食,懇親会 懸賞付テスト 成績優秀者表彰	
19	特別講演	不動産学部OBによる座談会		
20	自由行動		自由行動	
21				
22		自由行動		
23	就寝	就寝	就寝	
学習時間		200分間(40問)	390分間(80問)	390分間(100問)
				180分間(0問)

2日目には、不動産学部の卒業生を代表して、浅井博和氏（2期卒）、村上大輔氏（2期卒）、長谷川ゆう子氏（4期卒・緑風会理事）の3人にお越し頂き、仕事の日常がどのようなものか、学生時代に勉強以外で何を学んでおいて欲しいか、などについて話をして頂きました。

毎年、35~40名程度で行っている宅建合宿ですが、今回、約2倍の学生の参加が得られた背景には、学生の資格試験への心構えが年々前向きになってきていることと、学部教員の全面協力による宅建合宿開催に関する学生への周知があげられます。宅建受験の勝負どころである夏期休暇中に、学習機会を与えることで、学生の宅建に対するモチベーションが維持されたことでしょう。

今年の試験で一人でも多くの合格者がいることを祈っております。不動産学部の学生が卒業までに宅建を取得して社会に出て行くことは、大学、父兄、企業から最も期待されていることであり、緑風会としては、今後とも、学部生の資格取得の支援に協力していきたいと思っております。

最後に、今回の宅建合宿にご理解とご協力を頂いた、不動産学部、教育後援会、学事課、ホテル・アルパイン、越富士ホテル、東武トラベル（株）静岡支店 唐杉治氏（不動産2期卒），（有）むなかた 宗像兼智氏（本学卒・三井住友海上火災保険代理店），並びに、同窓生にお礼申し上げます。

（文章：副代表 岩切 秀仁）

浅井氏、村上氏、長谷川氏

学習風景



レポート1
氏名：岩切秀仁
不動産学部3期卒

資格名：土地家屋調査士
現在の仕事：不動産賃貸仲介業

社会人になる時、1年に1つの資格を取ることを目標に掲げました。在学中に宅建を取ったので、その延長上の資格として、「不動産鑑定士」、「司法書士」などと比較して、「土地家屋調査士」であれば、独学でも受かりそうだ、という安易な考えで勉強を始めました。結局、私はこの試験を4回も受験することになります。

1～2年目は完全独学で参考書と市販の過去問題集を解くだけの日々でした。3年目に、独学の限界を感じ、通信講座（ビデオ付き答案練習講座）をその年は受験する決意をしました。答案練習講座で、初めて私は自分の学習レベルを知りました。なんと、偏差値50未満をうろついていました。その年の本試験は不合格でした。4年目にも、答案練習講座をビデオ付きでその年も受講しました。この時点では、前の年に成績上位者がいなくなって（おそらくみなさん合格されたのだと思います。）いて、私も問題慣れしてきているので、ほとんどA判定（偏差値55以上）でした。そして、やっと合格する事が出来ました。

合格率6%と言われる試験ですが、実際、勉強して受験している人で受験レベルに達している人たちの中での合格（競争）率は20～25%位だと思っています。勉強した分は報われる試験です。ほんの少しの数学の知識が必要なだけです。そして、本気で合格したいならば、資格学校で「答案練習講座」を受講する事がお勧めです。（しかし、中級レベル以上の受験生が対象の講座ですので、初学者が受講しても難しいかもしれません。短期合格を目指すならば、多少費用が掛かっても「基礎講座」から受講して下さい。）

sin（サイン）、cos（コサイン）、tan（タangent）と聞いてアレルギーが出ない人であれば、必ず合格できます。

資格試験 合格体験レポート

・受験動機

平成12年7月に銀行から銀行所有の担保物権を調査・評価する関連会社に出向し、必要に迫られて同年宅建取得。更に必要に迫られて受験開始。

・試験勉強の方法

資格の学校TACに通って勉強しました。平日は3時間から4時間程度。土・日曜日は平均10時間程度は勉強しました。

・受験期間中のエピソード

この勉強をしたことがある方は理解できると思うのですが、不動産鑑定評価基準の暗記に苦労しました。学者の先生達が書いた論文のような文章を100ページ程度、一語一句暗記する訳ですから、辛いに決まっています。この暗記が誰にも負ける気がしなくなったとき、合格していました。

・今後受験する人へのメッセージ

この試験の合否は、能力ではなく、やる気で決まります。興味のある方は、躊躇しないで始めてください。合格するのは、世間で思われている程難しくないと感じています。合格後、資格とともに、受験仲間と過ごした日々が「良い思い出」として残ります。

レポート2
氏名：端元常真
（H17年3月卒）

資格名：不動産鑑定士第2次試験
現在の仕事：大垣共立銀行
(H15.11から(財)日本不動産研究所に出向)

2003年度 事業報告及び収支決算

事業報告

第13回理事会・第10回評議員会の開催……7月12日(土)
(但し、評議員会は不成立のため、理事会で代理執行)
不動産学部就職委員会就職懇談会参加……11月18日(火)
R. E. A. News 発行……11月1日付けで発行
第14回理事会の開催……12月20日(土)
資格取得支援事業開始……1月～2月申請受付 3月払込
第15回理事会の開催……2月21日(土)
不動産緑風会立上げ準備

収支決算

単位(円)

科目	予算	実績	残
会報発行費	250,000	262,500	▲12,500
印刷費・編集費・事務整備費	50,000	0	50,000
通信費	539,000	445,159	93,841
郵送代・切手・葉書 インターネットサーバー維持費・会議費	300,000	185,362	114,638
理事会・懇親会費用・日当 事務管理費	175,000	119,920	55,080
封筒代・事務消耗品・慶弔費	100,000	91,000	9,000
慶弔費・交通費	300,000	147,440	152,560
交通・宿泊費用・資格取得奨励費	600,000	40,000	560,000
奨励費用・就職支援費	336,000	11,235	324,765
参考書籍購入費・予備費	100,000	3,150	96,850
合 計	2,750,000	1,305,766	1,444,234

今後の日程

2004年
12月18日 第17回理事会

2005年
2月 各委員会
2月 第18回理事会
2月 4日 「不動産緑風会」設立パーティ（東京・日本橋）
4月 第19回理事会
6月 第20回理事会・第12回評議員会

卒業後、今年国家資格を取得した（宅建以外）方に朗報

第2回資格取得支援制度申込期間
平成17年1月11日～2月28日まで
詳細は当会HPをご参照下さい。
<http://www.meikai-rea.jp>

2004年度事業計画及び収支予算

事業計画

第16回理事会・第11回評議員会の開催……6月5日（土）

宅建合宿の実施……8月22日（日）～25日（水）

R. E. A. News 発行

第17回理事会の開催……12月11日（土）

資格取得支援事業……1月～2月申請受付 3月払込

第18回理事会の開催……2月26日（土）

不動産緑風会発足

インターンシップ受入れ先の斡旋

不動産学部退職教員の表彰……3月23日（水）

収支予算

科目	前年度予算	今年度予算	差額
会報発行費	250,000	480,000	230,000
印刷費・編集費・事務整備費	50,000	50,000	0
通信費	539,000	470,000	▲69,000
郵送代・切手・葉書 インターネットサーバー維持費・会議費	300,000	400,000	100,000
理事会・懇親会費用・日当 事務管理費	175,000	150,000	▲25,000
封筒代・事務消耗品	100,000	50,000	▲50,000
慶弔費・交通費	300,000	150,000	▲150,000
交通・宿泊費用・資格取得奨励費	600,000	800,000	200,000
宅建合宿費・奨励費・就職支援費	336,000	100,000	▲236,000
就職サービス・Web構築費 不動産緑風会費(新設)	800,000	800,000	0
予備費	100,000	50,000	50,000
合計	2,750,000	3,750,000	1,000,000

from 事務局より

RE

RE 日増しに寒さが増す毎日です。皆様にとって思い出の浦安の強風は、
今日も元気に吹いています。

RE 事務局は8月に場所の移動があり、現在はキャリアサポートセンターの隣りになりました。以前と同様のフロア（管理棟2F：旧図書館）ですが、位置は入口より一番奥となります。カウンターに次々と相談に訪れる学生を毎日見ては、早く社会で一人前になれるよう陰ながら応援しています。

RE 最後になりましたが、このたびの台風23号及び新潟中越地震の被害を受けられた地域の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。
RE 事務局：佐藤奈奈海
RE よいお年をお迎え下さい。

RE 平成16年12月20日発行

RE 発行：明海大学浦安キャンパス同窓会緑風会

RE 印刷製本：（株）弘文社 デザイン：石山悠子